

おわりに

◆ 昨秋、これまでお彼岸の日ピッタリに咲いていた彼岸花の開花が、十日間ほど遅れました。越前ガニも漁場が難しくなつたこと...「いよいよ温暖化が地面の温度や海水温を変えてきたか」と心配してしました。そこで農林水産部に「ホウレンソウや小松菜などが値崩れしているのでは?」

と質問。そうしたらやはり「ミニトマト、小松菜、ホウレンソウなどの生産サイクルが狂ってきていて値崩れ懸念。玉ねぎは中心部が育ってしまい品質の低下懸念、水仙はシカの害で減少、梅は花が早く受粉する虫が間に合わず不作懸念です。」

と、山のように心配事がある回答です。加えて積雪がなかったたので川の水も細く、ダムの貯水量も減っています。代掻きの時期までに適量の雨が降ってほしいもの。またさらに、学校給食を当て込んでいた水産物や野菜などの食材が、行き場を失って値崩れしているのも大きな課題です。

地場産モノの大ファンの私としては由々しき問題です。こうした農水産業の現状を想像しながら、地場産のものを適宜買い支えていきたいなと思います。お一人でも多く、お力添え賜れば幸いです。

細川かをり県政報告

第51号

心配しています

先日、新型コロナウイルス感染症追加対策予算を可決して、議会が終了しました。新規事業は例年の倍以上にあたる140事業、逆に廃止・縮減は749事業、杉本新知事の施策が本格スタートです。

予算トピック



	R2年度	昨年度
一般会計	4,833億円	4,699億円
2月補正	10億2,500万円	1,800万円

【ウイルス感染症対策】

- 医療** ●検査試薬 1,000 検体分準備 ●遺伝子検査機器を2台から3台へ増強 ●医療機関が専門外来設置の場合の支援
- 学校** ●放課後子供クラブへの増加経費支援 ●スクールカウンセラー等の相談対応強化
- 企業** ●中小企業融資枠拡大・保証料支援 ●企業のインターネット販売参入支援 ●輸入原材料の高騰に対する調達経費支援 ●経営相談の専門家派遣支援 等 (他に、国への要望を多数行っています)

◆ 新型コロナウイルスが世界的に蔓延しています。かつて室内気候を研究された信頼できる専門家の方が作られた「東京都のインフルエンザマニュアル」をご紹介します。

- ① 手洗い、うがいを頻繁に
- ② ドアの取っ手、机やキャビネットのカギなど多くの人が触れる場所はアルコール消毒
- ③ 人ごみはマスク着用
- ④ 室内は適宜窓を開け外気を取り入れ、室内を十分換気する
- ⑤ 個人個人、栄養ある食事をし、十分睡眠をとる

さらに、「高齢の方は室内温度にもお気をつけください」とのことです。

また、⑤の「栄養に関しては、別の専門家は、免疫機能を高めるとして「魚や魚介類」

「全粒穀物や季節の野菜に加え、海藻もミネラルが豊富なため、適量を毎日使うと良いですよ。」

「味噌やしょうゆ、梅干し、梅酢などの発酵食品を取る。また「ま塩や鉄火味噌などのふりかけはミネラルに富み、血液をアルカリ性にして免疫を強めます。」

とのこと。食生活も、見直します。

河川流域の安全について

細 昨今の「河川整備の考え方」に変化は? **土** 国では、「気候変動を踏まえた水害対策のあり方」を検討中。本年夏頃を目途に答申をとりまとめる。県として可能なものから取り入れていきたい。

細 河川・水路管理は連携できる体制か? **土** 県では「普通河川、用排水路、道路側溝」など他の管理者の施設と接続する場合には協議を行い、必要に応じて水門設置などの逆流対策や、調整池の設置などの実施を求めている。

細 不動産取引で土地の危険性説明を。 **土** 西日本豪雨等を踏まえ、来年度までに県管理河川すべてで「水害リスク図等の策定」を行う予定。令和3年度までに市町のハザードマップへの反映を図っていく。

土地利用は地域の歴史を踏まえており、なかなか一律規制が難しい部分があるが、県として水害リスクへの注意喚起のために、「不動産取引時に洪水時の浸水する深さ等のリスク情報を説明する」ように、事業者団体に対し協力を求めている。

◆ 株価も下落...疫病が経済を直撃ですが、リーマンショックの時と違って、今回はブローパンのようにじわじわギョギョと長期化の感があり、とても不気味です。グローバル経済で人の流れがあるのが当然

なのに、その往来に支障ありとなると。打撃の大きさは計り知れません。(海外状況は、アメリカのジョン・ホプキンス大学の「dashboard」が参考に。)

「都市の衰退・崩壊の原因は、①戦争②天災③環境④経済⑤疫病」ウィリアム・ランジャー著「黒死病」

とのこと。このさい、疫病対策もきちんと構築する必要がありますね。

県政報告

★ ラジオ「丹南FM79.1」
「県議会 夢 通信」
4月18日(土) 午後4時~
(再) 19日(日) 午前10時~

細川かをり県政報告 R.2.3
発行：福井県議会議員 細川かをり
事務所：越前市村国1-2-11
TEL・FAX 42-5888

ICTの教育

細 県内学校の情報教育の現状と、今後の見通しは? **教** 小・中学校は令和5年までに1人1台の端末環境を整備。県立高校は、令和4年度までに全学年3クラスに1クラス分を整備予定。私立もICT教育環境の整備を進めるので、県として支援する。

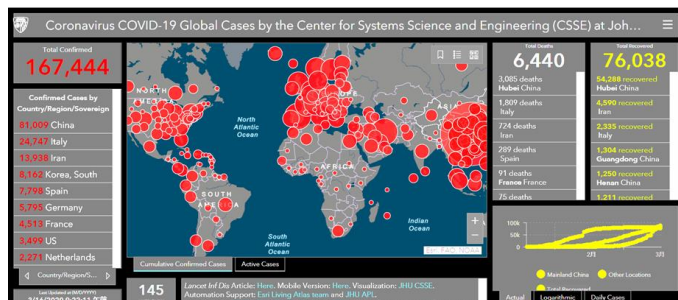
令和4年度から実施の新学習指導要領では、「情報I」が新設され、全ての生徒がプログラミング等を学習。また、令和6年度から大学入学共通テストで、「情報I」の出題が検討されている。

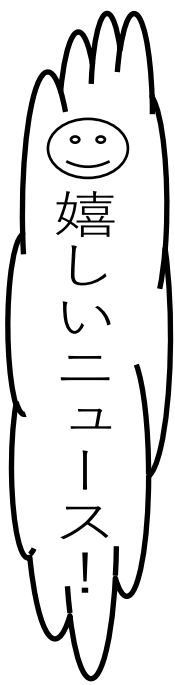
今後は、情報の授業で情報活用能力を育成し、タブレット等を活用しながら、全ての教科で情報教育の充実を図って参りたい。

今年度、情報専門の教員を1名採用した。(→初めてです)

総 端末の購入に当たっては「仕様が過大でないか、公平な競争原理が働くか」といった観点から、チェックをしているところ。専門的スキルを持った人材の育成も図っている。

※「在庫処分もの」を高額で買わないようご注意ください。スペック(仕様)を見分けられる目が大事です。





① 平成17年、「やさしさの輪」というイベントを行いました。前年の福井豪雨災害で、多くのボランティアさんなどに助けていただいた福井から、スマトラ沖地震津波災害の被災地に向けての募金活動です。当時私が副会長をしていたNPO法人ふくい災害ボランティアネットの呼びかけに、JC(青年会議所)、ボイススカウトはじめ多くの県民活動団体や個人が参加して実行委員会を設立し、福井市中央公園を主会場に、大掛かりな募金活動を展開しました。



↑ 西川知事(当時)も駆けつけご挨拶

↓ 八つ杉権現太鼓が応援演奏



↑ 街角で募金呼びかけ

② その浄財で、タイのドワン・プラティープ財団の孤児施設の中に、調理実習室付き多目的ホールを建設しました。



↑ 食堂としても使用

← 施設の子供たちと

③ このプラティープ財団から今回なんと『福井に介護人材を送っていただく』計画が説明されました。



杉本知事
当時担当副部長

※財団とはこれまで丸岡ロータリークラブやJCなどと、助け合いの民間交流が図られてきたからこそ、人材派遣です。関係各位に敬意を表します。

プラティープ財団の協力を得て、外国人介護人材育成を図ることになりました。

- (1) 財団と高校から福井県に来て、福井の介護現場を見てもらう
- (2) 来年度現地で日本語と介護の研修
- (3) 令和3年度、第一弾の介護人材に来ていただく

(将来的には20名程度)

という計画ですが、とても大事な「こととして」「福井で介護を学ぶ」「そのまま居ついでいただく」ことができるように、パートナーたる環境をつくることが大事です。

LINE(ライン)の会社に勤める友人は、

「企業進出を考える場合、そこに雇いたい人材がいるかどうかというのが大きなポイントだ。福井からも企業誘致にきたが、学歴ではなく、頼んだ仕事を『はいっ!』とこなせる新しい資格を持った高卒者が欲しかったので、お断りした。」

と述べていました。職業系高校での人材育成が大事と感じました。武生商工高校などに、期待したいところです。

児童虐待…児童相談所と警察の情報共有

児童虐待事件が増え、県内でも相談・対応件数が急増しています。そこで、機動力のある警察と児童相談所との連携強化を求め、
「福井県は警察から児童相談所に対しては全件情報提供しているが、児童相談所から警察への情報提供は一部にとどまっている。児童相談所と警察の全件情報共有を行うべき」と訴えてきたところ、昨年9月、県警が「児童虐待を見逃さないため、警察と児相の連携を再確認したい」と『児相との合同研修会』を開催。
そして、今年3月の県警の人事異動で、『児童虐待対策係』を新設し、福井と敦賀の児童相談所に**警察官を1人ずつ配置する**としました。
これで、全件情報共有が可能になります！
よかった！連携強化に期待です。

職業系高校重視…資格取得大事!

私が就職した頃は、バブル期の前で日本経済は上り坂、就職で困る声はほとんど聞きませんでした。
でも、私のかつての教え子たちは今20代半ばから30代：就職氷河期とかブラック企業とか、厳しい時代に直面しました。
「激務薄給、残業代不払い、ワンマン経営、パワハラ、セクハラ、マタハラなどの横行、過酷な環境下での労働を強いられる。」
といった課題は正を訴え、あるは逆に「教育は県内産業の求人に応じられる若者の育成を。人間形成力、コミュニケーション能力、粘り強さ・忍耐力、自己理解といった人間力の育成にも力を。」と議会で求めてきました。

また、『難関校進学者数、英語、学力テスト、白河文字学』に偏重しすぎる『福井の教育』に、教員時代から長年疑問を持っていました。
「細川、頼むで1校ぐらいは工業高校を残してくれ!」
という某工業系高校校長(元同級生)の嘆きの声や、「水産高校がなくなった!若狭高校に課の併設では『水産魂』が薄まる!」

「その人は何ができるのか」資格重視」と聞いています。(ラインのプログラマーをやっている知人は、「年に数個の資格を取る!」と言っていました。)
今議会、教育行政の議論では、職業系高校の資格取得「フーチャーマイスター制度」に力を入れ、難関資格取得者も出てきたと報告がありました。また、「リカレント教育(再教育)」の位置づけの模索も垣間見えます。
私は、ようやくバランスの良い風が吹いてきたと喜んでいます。